

エジプト、コプトの服飾文化
—大学付属博物館における服飾収蔵品の自然科学的調査と教育的活用—
Egyptian and Coptic Costume Culture
—Research on the Educational Use and Scientific Analysis of Costumes Collected in
University Museums—

岡田 宣世*¹⁺, 深津 裕子*²⁺, 石井 美恵*³⁺, 内藤 幸江*⁴⁺
Nobuyo Okada*¹, Yuko Fukatsu*², Mie Ishii*³ and Naito Sachie*⁴

*1 女子美術大学研究所 東京都杉並区和田 1-49-8
Joshibi University of Art and Design Research Institute
1-49-8, Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan

*2 東京文化財研究所無形文化遺産部
Department of Intangible Cultural Heritage, National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo

*3 女子美術大学大学院
Graduate School Joshibi University of Art and Design

*4 女子美術大学美術館
Joshibi University of Art and Design Museum

+ 服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture,
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : Joshibi University of Art and Design acquired an extensive collection of Egyptian and Coptic textiles which had been owned by the Kanebo Co. Ltd. The aim of this study was to examine scientifically the method of textile fabrication employed for Egyptian and Coptic costumes. Another aim was to learn how to make use of such costumes for the educational purpose in the field of tertiary sector. In the year 2008, preliminary studies have carried out at Joshibi University of Art and Design Museum and Bunka Gakuen Costume Museum.

はじめに

女子美術大学は、平成 20 年度に旧カネボウコレクションの一部を購入し、コレクションの基礎となったエジプト、コプトの服飾品を約 3800 点所蔵する運びとなった。本コレクションに関する研究書 [1-2] や展覧会カタログ [3-5] はあるものの、旧所蔵者のもとではそれ以上の包括的な研究はなされてこなかった。国内においてエジプト、コプト裂は美術館や博物館に収集されているが、展示や公開の機会は少ない [6-7]。共同研究者らは基礎研究に着手するにあたり、国内外の同様の服飾品を所蔵する研究機関および専門家らと連携をはかり、エジプト、コプトの服飾文化研究ネットワークを構築し、研究領域を活性化することが必要であると考えた。

*1) embdry@joshibi.ac.jp

本研究はエジプト、コプトの服飾品コレクションおよび同様の内外の遺品について、従来の文献を主とした研究に自然科学的研究手法を併用し、製作技法を中心に作品を調査・分析することによって、これらの服飾文化を明らかにすることを第一の目的としている。さらに大学が所蔵する服飾資料の教育的活用を実践的に研究することも目的としている。

平成 20 年度の 研究報告

1. 文献調査

エジプト、コプトの服飾研究について文献調査を行い、これまでの内外の研究について明らかにすることを目的とした。

- ・文献表の作成に着手した。
- ・女子美術大学図書館および文化女子大学図書館コプト関係図書をすべて閲覧した。

2. エジプト、コプトの服飾品調査

実物作品の調査を通じて服飾形態の特徴を明らかにすること、その過程で服飾文化研究の教材として作品調書モデルを作成することを目的とした。調査は女子美術大学美術館および文化女子大学服飾博物館にて平成 20 年 11 月から平成 21 年 2 月までの間に全 12 回行った。いずれの機関でも目視による作品調査を行い、作品を撮影し、作品調書を作成した。

2. 1 女子美術大学美術館所蔵品の調査 (全 10 回)
 - ・服飾形態の明確な作品 42 点を選別した。
2. 文化女子大学服飾博物館所蔵品の調査 (全 2 回)
 - ・ミイラの覆い布 4 点、コプト裂 17 点を選別した。

3. 調査、分析に必要な資材、試薬を購入した。

結果と考察

女子美術大学美術館のコプト裂にはほぼ完形の服飾品が含まれており、服飾文化を知る重要な手掛かりになることが判明した。文化女子大学服飾博物館のコプト裂は断片であったが、比較研究することで本来の部位などが明らかになるものと期待される。作品調査を通じて大学博物館に関わる研究者らが交流する機会を得られたことは、エジプト、コプト服飾文化ネットワーク構築のための成果である。

文献

1. 明石染人：「埃及び、コプト染織工芸史」，京都書院(1953-54)
2. 明石染人監修：「コプト・インカ染織文様」，京都書院(1957)
3. 山辺知之監修：「エジプト古代染織展：コプト織の世界」，鐘紡(1979)
4. 西宮市大谷記念美術館 (編)：「エジプト・コプト織の美展：鐘紡コレクションによる」，西宮市大谷記念美術館(1979)
5. 西村兵部、国立近代美術館京都分館監修：「コプト染織」，美術出版(1966)
6. 古代エジプトの染織美コプト織：皆川泰三コレクション」，古代オリエント博物館(1998)
7. 大阪市立美術館 (編)：「大阪市立美術館蔵品図録四：コプト・エトルスク美術編」，大阪市立美術館(1973)